



1984 / 9 No. 188



太閤山ランド、サマーフェスティバル（8月13～15日）、百年の泉の前で

あなたのふるさと
わたしのふるさと

— 立山旧登拝道 —



紅葉の季節ももう近い

日帰りで立山登山ができる今日、旧登拝道を歩く人もほとんど無くなりましたが、昔日の登拝者の苦労や立山信仰の遺跡を訪ねて、一度立山旧登拝道を歩いてみませんか。



タテヤマチングルマ

まずは手始めに、手軽に日帰りでできるコースとして、厚い信仰心をしるばせる天狗平から弥陀ヶ原へと歩いてみてはいかがでしょうか。きつと可憐な高山植物や小鳥たちが、あなたを歓迎してくれることでしょう。

立山高原バスを天狗平で下車して、五分ぐらい道を下ると弥陀ヶ原へ下りる旧登拝道の入口があります。舗装道路から離れて

まず手始めに、手軽に日帰りでできるコースとして、厚い信仰心をしるばせる天狗平から弥陀ヶ原へと歩いてみてはいかがでしょうか。きつと可憐な高山植物や小鳥たちが、あなたを歓迎してくれることでしょう。

さて大日連山を右手に見ながらバスの騒音も遠ざかる頃、突然、ギャーッ、ギャーッという声に驚かされることがあります。ホシガラスが、自分よりも身体の大きいカケスなどを追いかけているのです。

やがてオオシラビンが数回の高さになる所に出ると、道は「一

旧道を歩けば、そこはチングルマ、イワカガミ、ツガザクラなどの花々が咲き乱れ、キタゴヨウマツ、ミヤマハシノキやナナカマドなどの木々が、風にそよぎながら迎えてくれます。

またところどころにある池塘（ガキの田）の付近には、ワタスゲ、イワイチョウが咲き、ゼンテイカが色を競っています。水辺を見てもみましょう。食虫植物のモウセンゴケが、頭を持ち上げて獲物をねらっています。

の谷」の方へと入ります。このコースの最大の難所「金クサリ」の崖が近くなってきました。オオバキスミレやジャムカデ、エンレイソウの花が、知らぬげに咲いています。

さあ、絶壁を見下して、鎖に手をかけ、恐る恐る足を下に出しながら降り始めましょう。水気を含んだローム層の地肌は、ともすれば滑りがちです。一つ、



ガキの田とワタスゲ

一つ、ゆっくり降りることで、左手に巨大な岩が現われます。「獅子が鼻」です。その中腹には、弘法大師像を祀る祠がありますが、登るにも鎖は無く、また祠の前にはお参りするような座もありません。でもなんとか岩にしがみついて登り、お参りすることが出来ます。

さてここまで来れば難所を越えたも同然です。急な下りをし

金クサリの下り



すっかり踏みしめ、一の谷を渡り、坂を登り切ったらそこは弥陀ヶ原です。後にはもう獅子の鼻が小さくなって見えます。大小のガキの田、チングルマのお花畑が展開しています。その中に薄



弘法大師像の祠

いピンクのチングルマを見つけたら、それは珍しいタテヤマチングルマです。

ガキの田の木道あたりには、点々と高山特有の旗形樹型を示すオオシラビンが成育しています。背後には「天狗の鼻」（天狗山）が大きくそびえています。

一の谷からの登りで苦しかった呼吸も、もう平靜になりましたね。休憩時間もいれて三時間のコース、静かな旧登拝道は自然が親しく私たちを迎えてくれます。

是非、あなたも歩いてみてください。秋には美しい紅葉の装いとなって、あなたを歓迎して



くれることでしょう。

(清水 巖)

今月は、大沢野町の清水巖さんから原稿と写真をいただきました。

このコーナーでは、読者のみなさんのふるさとを紹介した写真と原稿をおまわります。

ふるってご応募ください。

● 送付先 〒930富山市新総曲輪一番七号 県広報課
「あなたのふるさと」わたしのふるさと」係



立山漫陀羅図

9月号	あなたのふるさとわたしのふるさと	TOYAMA JUST NOW
●	立山旧登拝道 — 表1~1	友好の使者マーロ — 12・13
も	クローズアップ	ちょっぴりたくましくなったぞ — 14~17
く	やった、銅メダルII — 2	美しいふるさとづくりは花と緑から — 18・19
じ	鎌を持って、青春を燃やせ — 3	くらしの情報コーナー — 20・21
	陽気なおまわりさんの音楽会 — 4・5	トピックス — 22・23
	若者の力で拓く明日の郷土 — 6~8	お知らせ — 24
	ご存じですか、軽油引取税のしくみ — 9	特産王国とやま
	愛の、のびのび合宿 — 10・11	富山昆布巻かまぼこ — 表3



やった、銅メダル!!

パラリンピック出場の中橋一彰君



オリンピックの開催にあわせて、四年に一度開かれるパラリンピック（国際障害者スポーツ大会）。七月二十二日からロンドン郊外に、五十か国、約千五百人が参加して開かれました。

富山県から唯一人参加したのは、大門町の中橋一彰君。スラローム競技で堂々三位に入賞し、銅メダルを獲得しました。スラロームとは、百十メートルを車でいくつもの旗門をくぐり抜けながら速さを競う種目です。

生後十ヵ月で小児マヒにかかり、車イスの生活を続ける中橋君ですが、陽気で元気な彼は障害を克服して、二年前に始めた車イスバスケットボールでも県チームの一員として、活躍しています。普段は高岡市の測量機器会社で事務をとる、二十四才の魅力的な青年です。毎日仕事の後や休日を利用して、仲間と練習に励んでいます。

「これからの夢は？
「もう一度、パラリンピックに出たいですね。」



鎌をもて、青春を燃やせ

草刈り十字軍奮闘中



外国人も参加しています

▲鎌研ぎ休憩中

全国から元気な若者が結集しました。七月下旬から約二週間、共同生活をしながら県内の森林の下草刈りをこなす、草刈り十字軍の若者たちです。

ヘリコプターによる除草剤の空中散布から森林の生態系を守ろうと始まったこの活動は、今年で十一年目、息の長い自然保護運動になりました。

毎朝四時起床、一日十時間の重労働は、真夏の太陽との戦いです。長い鎌をふるう彼らの身体から、汗がしぶきとなって飛び散ります。杉の幼木に巻きついたつる草をていねいに切り取る手から、汗がしたり落ちます。待ちに待った「鎌研ぎい!!」の号令、三十分一度の鎌を研ぎながらの小休止です。

蜂や蛇に悩まされるのは日常茶飯事。一番怖いのはスタミナ切れと負傷です。強靱な精神力とチームワーク、そして緑を守り育てようとする彼らの心意気が、この活動を支えています。

「来年も来るかい。」と尋ねたら、「必ず来る、きつと来る。」、全員から力強い答えが返ってきました。

陽気なおまわりさんの音楽会

— 県警察発足三十周年記念大演奏会 —



今年、県警察本部が発足して、三十周年。もっと県民に親しまれる警察にしようと、県警では様々な努力をしていますがその一つとして、警察音楽隊があります。

昭和三十三年、富山国体が開催された折に、富山県警察音楽隊が創設されました。現在、女子カラーガード隊六名を含め、三十二名の隊員で編成されるブラスバンドです。いろいろな行事のマーチバンドとしても活躍していますから、ご存じの方も多いと思います。

パトカー乗務員、婦人警察官、交通巡視員など、いつもは厳しい勤務のおまわりさん達ですが、「県民と警察を結ぶ音のかけ橋」をモットーに、時間をみつけては一生懸命練習を重ねてきました。

さて、去る八月四日「富山まつり」に協賛して「おまわりさんの演奏とドリルの祭典」が大に行われました。富山県警のほか、石川、新潟、愛知の各県警音楽隊も特別参加し、四県警約百六十名の大音楽隊の演奏となりました。

まず午後四時「富山まつり」市民パレードに先立って、西町交差点付近で各隊ごとに見事なドリル演奏を展開しました。そして市民の賑やかなパレードにも参加し、華やかな女子カラーガード隊を先頭に、繁華街を進行し、沿道の人々の大喝采を博しました。

そして夕方六時半からは、富山城址公園を会場に、楽しいドリル演奏やダイナミックな四県警合同演奏を披露し、真夏のたそがれどき、夕涼みをかねて集まった約四千人の県民の耳と眼を十分に堪能させました。



青年団活動に見る

自らの生活の向上と若者同志の連帯と友情を深める活動を通じて、住みよい郷土づくりを目指す若者たちの団体、青年団。その活動の要となる富山県青年団協議会は、今年で結成されて三十四年になります。これまでも数多くの成果をあげ、輝かしい伝統を築きあげてきました。

ひら

その組織は昭和五十八年七月現在で、二百三十八校下(地区)、九千五百五十二名の団員によって構成されています。今年「青年の英知と行動を結集し明日の郷土を拓こう」のスローガンの下に、多様な活動を展開していますがその中からいくつか主なものをご紹介します。

若者の力で拓く明日の郷土

若者の意欲を行政に

— 富山県青年議会 —

昭和三十三年に第一回の県青年議会を開催して以来、毎年開いていますが、全国的に見ても極めてユニークな活動として注目されている事業です。

この事業の目的は、若者自身が実際に議員活動を体験することによって政治及び行政に対する関心を高めると同時に、民主政治の浸透・普及を図ることです。

議員は、各市町村連合青年団から選出しています。これまで

にも彼ら青年議員の意欲的な活動が行政にも反映され多くの成果を上げてきています。

今年、二十八回目を迎え、

去る七月十四日に開会しました。現在も、四十二名の議員が十一月の本会議に向けて、各委員会に分かれて活発な学習活動を展開しているところです。

また、市町村においても県レベルのものと同様の青年議会を開催しており、それぞれの地域の実情に即した問題を中心に、教育、産業、建設など、幅広く活発な議会活動を行っています。

若者の手と郷土を美しく

— ふるさと運動推進大会 —

富山県の象徴である霊峰立山、その美と豊かな自然をいつまでも誇り育てようと、昭和三十七年の夏、県下の青年団員や一般の有志が多数参加して「立山美化大行進」が行われました。

その後、毎年継続して行われ、昭和四十七年、「美化行進」十一周年目を契機に、立山のみならず広く県下一円で、若者が先頭に立ったふるさと清掃奉仕活動を行うって、郷土美化を推進しようということになりました。



▶立山美化大行進

名称も「ふるさと運動推進大会」と改め、二十有余年後の今もなお拡大・発展して受け継がれてきています。

今年、去る九月一日と二日の二日間にあたり、県内各青年団、各種団体、それに一般県民が参加して、立山一帯で盛大に、第二十三回立山美化大行進(第十四回ふるさと運動推進大会)を実施しました。

この若者たちのふるさとを護り育てようという行動を通じて、世代を超えた地域ぐるみの「美しく、うるおいに満ちたふるさと」富山県を育てる活動へと、大きく発展することを期待したいものです。

若者のスポーツと文化の祭典

— 富山県青年大会 —

県下の青年団員が一堂に集まって、スポーツ、文化、芸能、意見発表など、日常の青年団活動の中で培われた力を発揮する、若者の力と美の祭典です。



県青年議会で



スポーツ活動も盛んです

目標の成果を発表

相互の友好と親睦を深めるとともに、健康で文化的な生活と希望に満ちた郷土づくりを目指しています。

若者が結ぶ国際親善

— 富山県青年海外セミナー —

この大会は、昭和二十七年以来毎年開催されており、今年三十三回目になりました。今年の統一テーマは「友情」。八月二十五日と二十六日、砺波市をメイン会場にして、賑やかに練り上げました。この大会の各部門

の最優秀入賞者(二百名余)は、東京で開催される全国青年大会に出場する予定です。

世界の若者たちとの交流を通じて、国際的な視野を広め、友好、親善を図ることを目的として、県青年団協議会が自ら企画、

ご存じですか

軽油引取税のしくみ

自動車は、わたしたちの生活の足として、また大切な物資輸送の手段として現代の社会で欠かすことのできないものとなっています。ですから道路の整備が、国や県、市町村の大きな仕事になっています。

この道路の建設や補修の費用をまかなうため、揮発油税・自動車取得税などいくつかの税が定められています。

軽油引取税もその一つです。

●軽油引取税とは

この税は、バス・トラックなどの燃料として消費される軽油の引取りに対してかかる税で、みなさんがスタンドで購入される軽油の代金に1リットルあたり24円30銭の割合で含まれています。

●免税になる場合

軽油引取税は、あくまで県内の道路整備の費用にあてるという特定の目的のために使用される財源ですから、軽油を道路の利用と関係のない用途に消費する場合には、免税扱いになります。

- ①船舶、鉄道又は軌道用車両等の動力源
- ②農業、林業その他素材生産業用機械等の動力源
- ③陶磁器製造業、鉄鋼業、電気供給業、化学工業等のための一定の用途



農業用機械の軽油は、免税になります

●免税軽油の購入の方法

免税となる軽油を使用しようとする人は、まずあらかじめ県税事務所へ申請して、「免税軽油使用者証」の交付をお受けになってください。

そして軽油を購入するときは、県税事務所にこの証票を呈示して必要な数量の免税証（チケット）の交付をうけてください。この免税証を業者に渡すと、税のかからない価格で軽油を購入することができます。

なお、詳しいことについては、お近くの県税事務所へご相談ください。

運営して実施している画期的な事業、「富山県青年海外セミナー」。今年で十二年目で、これまでに、東南アジア諸国をはじめ、ソビエト連邦、中国、西ヨーロッパなどを訪問し、各国の若者たちと積極的に交流し、友好を深めてきました。

今年度は、三十名を来春一月に、大韓民国へ派遣することになっています。

若者が、国際化を目指す富山県の一翼を担っているのです。



▲国際交流にも力を入れています

地域に根ざした若者の活動を

様々な活動を通じて、素晴らしい実績と伝統を築き上げてきた青年団ですが、活動には悩みや困難も伴います。

その中で最大の課題は、青年団加入率の低下ではないでしょうか。昭和五十八年七月一日現在で、十八歳から二十五歳までの青年団加入対象者数は、九万八千二百十六名です。ところが実際の加入者は、そのうちの

九・二割、九千五百五十二名にすぎません。

地区青年団や連合青年団では、広報活動や研究会などを行って加入促進を図っていますが、なかなか加入者は増加していません。

青年団は、もともとは地域に根ざした若者の団体です。若者の力を地域社会の発展のために結集し、若者にふさわしい役割を果たしてきました。

ところが今日、職任分離が進み、また大学進学者が増加していくなかで、若者同志の地域内でのきずなが薄れてきています。また、若者が中心となって運営してきた地域の祭礼や行事、娯楽などについての意識が低下したのも事実です。

しかし今、一人ひとりの若者は、孤独で根無し草になってしまっています。やはり若者たちを地域につなぎとめ、若者たちの力を地域社会の発展に生かすのは、青年団活動ではないでしょうか。

生まれ育った郷土、そしてこ



地域の行事を支えるのは若者たち

れからもずっと生き続けていく郷土、その郷土の未来を築くのは、若者たちです。一人ひとりの力は小さいけれど、団結すれば、未来は明るく拓けます。来年、昭和六十年は、「国際青年の年」。夢と希望に満ちた若者たちは、ふるさとの新世紀の主役です。一層の活躍と発展を期待します。

愛の、のびのび合宿

—療育キャンプの報告から—

去る八月九日、十日の二日間、精神薄弱児・者施設「セーナー苑」と大沢野パレスを会場に、療育キャンプ「愛の、のびのび合宿」が開かれました。

これは、富山県精神薄弱者育成会が主催したもので、県や富

山県社会福祉協議会、富山県愛護協会などの後援のもと、県内の精神薄弱児通園施設、幼稚園、保育所及び養護学校へ通っている、在宅障害児とその保護者を対象としています。

参加したのは、五十三組の親

子。セーナー苑や関係者、それに富山女子短期大学と県立保育専門学院の学生ボランティアの協力を得て行われました。

家庭での障害児の養育は、早

い時期から、親の正しい理解と愛情を土台に、根気よく続けら

れる必要がありますが、とても力がつかないうちに過保護や放任に陥ってしまうことが多く、子供の自立しようとする芽を摘んでしまう恐れがあります。

そこでこのキャンプですが、目的は、二つあります。まず一

つ目は、施設オープン化事業の試みの一環としてセーナー苑の協力を得て、施設機能を活用した、在宅障害児の集団生活体験。

もう一つは、親と子を分離して、親たちには研修会や相互の交歓などを通して、ひとときの安らぎで日頃の疲れをいやしてもらおうとともに、将来への希望を確認しあってもらおうというものです。

二日間とはいえ、いつもは親が付きっきりの子供たちにとって、親と分かれての集団生活は、もちろん初めての経験です。最初はなかなかじめず、ボラン

▼はじめまして、よろしくね



▼みんなと親しくなれました



ティアや職員も困惑していましたが、「つどい」の日課の中のゲーム大会やボランティアの形劇、入浴、食事などを通して次第に緊張もほぐれて、笑顔も見えるようになりました。

そして二日目になると、同じ食事をとり、同じ部屋で眠ったことで子供たちも安心感を得たのでしょうか、心なしかゆったりと落ち着いてみえました。

一方、親たちは、同じ障害児をもつ者として、家庭内の養育のあり方などについて卒直に語りあい、通園施設に対する理解を深める中で、ひとときの安らぎを満喫し、明日への希望を強めました。

今回のこのキャンプは、昨年に引続いて二回目、それなりの成果を上げて、再び参加したいという声もたくさん出ました。

県では、今後もこのキャンプを継続的に実施して、地域社会における障害者対策のあり方を模索していきたいと考えています。

▲ボランティアのおねえさんと

「友好の使者 マーロー」

富山県と中国遼寧省との友好県締結を記念して、遼寧省から本県に二頭の「馬鹿」が贈られました。

これは、「富山県青年の船」が昭和五十七年に遼寧省を訪問した際、友好親善の「しるし」として、立山風土記の丘カモシカ園で飼育されていたニホンカモシカ二頭を贈呈したことへの返礼でもあります。

今回贈呈された「マーロー」は、遼寧省の省都、瀋陽市の動物園で昨年の五月に生れ、大切に育てられていたもので、六月二十一日に大連港で船積みされ、二十六日朝横浜港に入港しました。そして直ちに農林水産省動物検疫所で三十五日間の検疫に入り、七月三十一日に検疫を終え、輸入手続き等を完了して、八月二日に富山県に到着しました。

「マーロー」は、シカ科の哺乳動物で、日本では「アカシカ」といわれており、中国の東北部・内蒙古・西北部等に生息し、成長すると体長二メートル、肩高一・四メートル、角の長さは二メートルを超えることも

もあるそうです。中国の人は、この大型の鹿のことを、馬のように大きい鹿ということとで、「馬鹿」という名を付けたようです。

現在、日本で飼育されている同種のマーローは、仙台市の八木山動物園に今年中国から贈られた三頭がいますが、その他に日本における飼育の明確な記録が無く、非常に珍しい動物とされています。

県では、友好県省の象徴である「マーロー」を県民の皆さんに永く可愛がっていただくため、富山市へ贈呈し、富山市ファミリーパークにおいて一般に公開することにしました。

八月二日には、富山市ファミリーパークの飼育舎前において、園児多数による、くす玉割りや登壇（雄「宝々」雌「貝々」の発表などの公開セレモニーが行われました。この「宝々」「貝々」は、現在満一歳の幼獣でまだ小さな鹿ですが、やがて成獣となったときには見事なツノをつけた「馬鹿」という名にふさわしい姿を披露してくれることでしょう。

また富山県から遼寧省に贈られたカモシカも瀋陽市の動物園で元気に育っており、早く二世の誕生を、と期待されています。いずれも友好の使者として立派に成長してほしいものです。



— 若潮チャレンジスクールから —

ちょっぴり

たくましくなったぞ



二十一世紀の富山県を担う若者たちの、健全でたくましい成長を図って、今夏初めて、中学生を対象とした少年海洋教室「若潮チャレンジスクール」を開催しました。
県下全域の中学校から八十七名が参加、東部域の四十三名は八月四日から、西部域の四十四名は八月十八日から、それぞれ四日間、合宿生活をしました。前半の二日間は陸上で予備研修を行い、後半は国立富山商船高等専門学校の練習船「若潮丸」に乗り込んでの洋上研修です。
八月四日からの東部域の中学生たちの活動の記録を追いながら、彼らの若者らしい活躍ぶりを紹介してみよう。

■第一日目

「初日、電車に乗って桜井駅へ向かう時、チラリチラリとリユックサクが見えた。すると今までの不安が消え、希望が益益、ふえていった。」

黒部青少年の家に着くと、受付で⑤の入ったネームがわたされた。そして五班のみんなと顔を合わせた。全員、他校なのでうまくやっていけるか心配だったが、話をしているとすぐ、友達になっていった。

(芝園中 松下 哲也)

午前十一時、黒部青少年の家で開講式。見知らぬ者同志で、不安と期待の入り混った顔の中

学生たち。でも昼食の頃にはもうあちこちから笑い声も聞こえてきました。

この日は、キャンプ。まずテントの張り方から始まり、夕食作り、夜のゲームなど、何から何まで初めての経験という子供もいて、とまどいながらも楽しく夜は更けていきました。

「班の協力がうまくいかなかったので、時間オーバーばかりして、休む時間がなくてたいへんでした。食事を作るとき、水の量が一番たいへんで、多すぎたり、少なすぎたりして、めちゃくちゃになってしまいましたがおいしくたべました。かぼちゃ

自分たちで作ったキャンプの食事



を焼いたつもりだったので、生のままで、かたいのがたくさんありました。その日は、はじめてあう人ばかりで、ドキドキしていましたが、ぶじすぎて、よかったです。」

(魚津西部中 石崎 里美)

■第二日目

六時起床、朝食準備。献立は目玉焼、生野菜のサラダ、味噌汁とご飯。食事作りも二回目となり、ご飯の炊き方など、かなり上手になりました。

この日は、船上生活のための基礎訓練を行いました。地図をもとに自分の現在地や目的地を割り出す訓練を兼ねた追跡ハイキングや、手旗信号の練習など。

「二日目の野外すいはんは、おいしかった。午後から追跡ハイイクに入ったとき、最後に出発した。途中いろいろな困難があったけど、無事通過した。ゴールにきたとき、やっとついたので、おそくなったと思った。」

漂流クラゲを作ったり、手旗信号をやったりした。」

(上市中 魚尾 正次)

夕食からは、黒部青少年の家ですこしました。

「二日目の夜からやっと他の人たち(注、黒部青少年の家)にごはんをつくってもらえるようになったので、すこしはらくになった。その日の営火は、とっても楽しかった。」

(大沢野中 若林 綾子)

■第三日目

若潮丸に乗船する日になりました。八時すぎ、黒部青少年の家を出発、途中、県庁で記念撮影をして、新湊の国立商船高専の臨海実習場で待機している若潮丸へと向いました。

十一時に乗船式。船長さんに花束を贈呈して「二日間、よろしくお願いします。」

さて若潮丸に乗船してみると、「若潮丸」は思っていたより小さかったけれどなかなかに広いと思いました。船のなかでは、いろいろとすごい設備になっているのだなと思いました。」

(鷹施中 木本 千恵子)

いよいよ出港です。「乗る前に、船よいをするので





はないか、と心配していたのですが、きれいで広い海を見るとそんな心配もどこかへ飛んでいきました。船が進むと、冷たい風が顔にあたり、そんな気持ちの良い所でみる海は、もう最高でした。」

(堀川中 早水 裕美子)

若潮丸で初めての食事は、心づくしのカレーライス。ひとこちついたところで、さっそく洋上研修が始まりました。

救命胴衣のつけ方、船の位置の測定法、海象観測（ここでは海流を調べるため、黒部青少年の家で作った漂流クラゲ放流もしました。）、「富山と海」の講義と、夕方までスケジュールはびっしり。見るもの、聞くもの初めてのことばかり、そして船長さんたちの巧みな指導、とってもし面白かったし、ためにもなりました。

「船位測定、海象観測がとても勉強になりました。船位測定は今までは陸上で現在位置や到着地点などを測定したりしていましたが、今回は海上です

から若干とまどいました。海象観測は海水のとう明度、水深、水温の観測などをしました。水深千メートルの地点の海水のとう明度は、白い板を海中の水深四十メートルまで入れても見えるというきれいさ。水温は二百六十メートルの所で一度℃という冷たさ。とても海はきれいでした。」

(八尾中 坂田 政義)

そして夜、狭い船のベッドだったけれど、みんな安心してグッスリ眠りました。

■第四日目

とうとう研修も最後の日になりました。若潮チャレンジスクール、最大のイベント「漂流いかだ」に挑戦です。水深三十八メートルの海上にいかだを浮かべて漂流する。そしてその後、海に飛び込んで泳いで帰らなくてはならないのです。でも、彼らは毎日続く暑さには少々うんざりしていましたが、青くて広い冷たい海で泳げることを、とってもし楽しみにしていたようです。

「船、若潮丸に乗ってからは前半のきびしさをわずれ楽しい

からやり直すこと。つまり七転八起だ。

それに自分は世の中の中心ではないということ。

最後に協力するということ。」

(富山東部中 村田 大輔)

「海に山にチャレンジした四日間。普段は体験できないことを沢山することができました。私達の郷土を見直す、自分達でテントを張り、食事をつくるなど、いろいろやっていると、先生もいわれた『感謝の気持ち』というのが分かるような気がします。友達もたくさんでき、良かったです。」

(芝園中 田辺 由起江)

四日間の研修で、真っ黒に日焼けした彼ら、ちよっぴりたくましく、そして頼もしくなってきました。

「また、乗りたい。また、会いたい。」

若潮丸で得た友情と、チャレンジ精神で、彼らの未来への航海は、どんなふうにかわるのでしょうか。



▶海はきれいで夢がある

活動ばかりでした。活動の中で一番楽しかったのは、漂流いかだのチャレンジです。大きな救命いかだが海の上で開くところはすこくびっくりしました。いかに乗って少し船からはなれみんな海にとびこんだ時は、うれしくてはしゃいでいました。」

(山室中 泉 雅子)

「救命胴衣をつけて海に入り三百メートルくらい泳いだのが一番楽しかったです。救命ボートに乗って、三百メートルの所から海に入り、一列になって泳ぎました。海の中は思っていたよりとても温かったです。でも泳いだ時間が短かったのが残念です。」

(魚津東部中 長田 宏和)

そしてとうとうお別れの時がきました。

「四日間というと、長いようで短かった中学生海洋教室だったが、この教室では、いろいろなことが分かった。まずは、目標を立てて、その目標に向かって努力することだ。次に、失敗しても、また始め



◀海象観測漂流クラゲ「返事ください。」



美しいふるさとづくりは花と緑から



風の中にも秋の気配が感じられる今日この頃です。真赤な彼岸花の咲き乱れる九月の下旬頃が、来年の春の草花の種子を播く時期だと言います。そろそろあなたの家でも、春に向けてのガーデンプランを作りませんか。

ミニ庭園は庭づくりのお手本です

花と緑、豊かな環境づくりを目指して「あなたのガーデンプランから緑化技術の相談指導まで」をモットーにしている、富山県緑化センターに、日本庭園の見本園が誕生しました。

これは、県民の皆さんが自宅で庭園を作られるときの、生きた参考にしていただこうと造成したものです。いろいろな設計の庭園を四十平方メートルのミニサイズで、十区画展示しています。

例えば、無駄を省き、もの静かな「わび」を表現した独特の日本情緒豊かな庭、景石や敷砂

で溪流を表わし、静と動との調和を強調した庭、富山県のシンボル立山連峰と豊かな実りをもたらす水田を表わした洋風のものなど、いろいろ変化に富んでいます。

すでに県政バス参加者や一般の方が見学され、大変好評をいただいています。これからも県民の皆さん多数のご来訪をお待ちしております。

花と緑のいろいろな相談に応じます

さて緑化センターは、十一畝の敷地をもち、そこには四つの樹木見本園、二十八種の生垣見

本園、〇・八畝の芝生園などのほか、花壇、フラワーポットなども多数設置して、約四百二十種、一万二千本の大小様々な樹木や、四季折々の草花を植栽しています。

またそこでは、指導員が実際に来訪者の方々に樹木や草花をお見せして、花や緑に親しんでいただくほか、家庭や地域、学校、工場などの緑化プランの相談にも応じています。また植栽

から雪囲いに至るまでの、あらゆる栽培管理に関する相談指導も行っています。

花と緑の銀行もご利用ください

なお緑化センターには「うるおい豊かな美しい県づくり」の推進役として「花と緑の銀行」の本店もあります。この銀行では各市町村ごとに支店を置いて

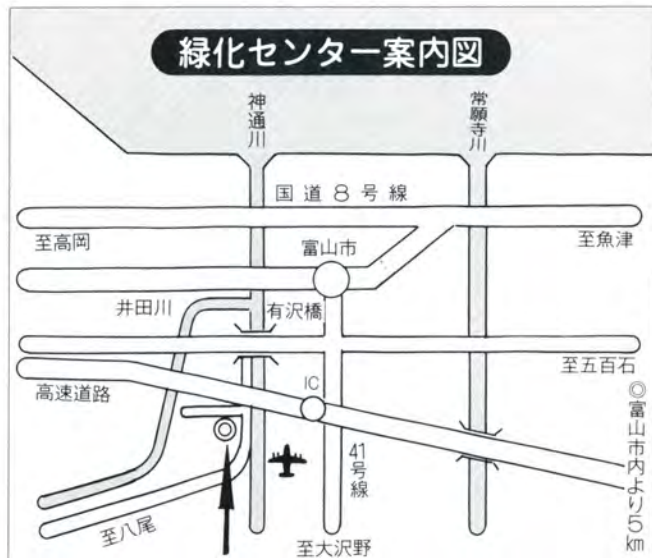
地域の花と緑を増やしたり、皆さんの緑化相談に応じています。また、花壇づくりや花の街道コンテストなどを行って、花と緑の普及と啓蒙を進めています。

あなたの身近かな所にも花と緑の地方銀行や地域の指導員（グリーンキーパー）が設置されています。

あなたの花と緑のカウンセラーとして、緑化センターと花と緑の銀行を、どうぞ気軽にご利用

用ください。そして二十世紀に向けての「日本一の花と緑の県づくり」に、あなたも参加しませんか。

緑化センターは 〒951-11 婦負郡婦中町上替田 四二番地 ☎0766-55553です。花と緑の銀行の各支店は、市役所及び町村役場にあります。



利用方法

- 休園日……12月1日から3月31日まで、ただし、緑化指導館については、12月29日から1月3日まで及び日曜日と祭日の翌日
- 開園時間……午前9時から午後5時まで
- 交通機関
 - ・富山地方鉄道バス富山駅前発
 - 八尾行(堤防廻り)塚原下車、徒歩15分
 - 〆(熊野廻り、長沢廻り)鴉坂農協前下車徒歩15分
 - 山田行——鴉坂農協前下車徒歩15分
 - ・国鉄北陸線 富山駅下車ハイヤー15分
 - ・国鉄高山線 速星駅下車ハイヤー8分



▲緑化センターは憩いと創造の空間です(ミニ庭園前で)

健康ひとくちメモ



救急の日

九月九日は、救急の日です。救急患者が最近増加していることから、救急医療に対する正しい理解を求めるために、昭和五十七年に設定されました。

突然の病気や負傷で救急車や急患センターを利用された方も少なくないと思いますが、富山県では、休日や夜間でも身近な所で安心して医療サービスが受けられるよう、地域の医師会や消防機関等と話しあって、県内を四つのブロックに分け、第一次から第三次までの救急医療体制を整備しています。

第一次体制は、軽症患者に対する治療や重症患者の応急措置を行う医療体制で、開業医による休日、夜間の在宅当番医と各ブロックの急患セ

ンターがこれにあたっています。

第二次体制は、手術や入院を必要とする重症患者の診療を担当しています。これには各ブロックの基幹病院があたっています。

第三次体制は、集中治療を必要とする重篤な患者の診療を行う施設です。

現在、県立中央病院救命救急センターが、二十四時間体制で実施しています。

救急医療体制は、あくまでも緊急の治療を要する患者のために、関係者の努力に支えられて設けられているものです。

- ①診療時間内の受診に努めましょう。
 - ②時間外の急病も、まずかかりつけの医師に相談しましょう。
 - ③救急車の安易な利用は避けましょう。
- 〈各ブロックの急患センター〉
- ・富山市救急医療センター 富山市丸の内二の八の五 ☎七六四(五)三二
 - ・高岡市急患医療センター 高岡市本丸町九の一 ☎七六六(五)七二
 - ・新川地区休日夜間急患医療センター 黒部市三日市一五三三の八 ☎七五五(五)七三三
 - ・砺波圏急患センター 東砺波郡福野町 柴田屋一九五一 ☎七六二(三)三九九

ナス

「秋ナスは、嫁に食わずな」と言います。これには、秋ナスは種子が少ないことから、子種が絶える、また食べすぎると下痢をして、身体が冷える。だから子孫を産む大切な嫁には食べさせるな、という説と、秋ナスは美味であることから、憎らしい嫁に食べさせるなという嫁いびり説とがあります。もともと身体に悪いというのは全く根拠がありません。

春に種子を播いたナスは、どんどん成長して、梅雨の頃にはもう収穫することができ、またナスの花は無駄花が無いといわれるほど、晩秋まで毎日のように結実して、私たちの食卓を賑わせます。家庭菜園で十本も植えておけば、近所におすそ分けするほど収穫できます。

とやま旬の味

私たちが食用にしている果実は、紫黒色ですが、観賞用に白とか緑とかマダラ模様のもとかあるそうです。紫黒色の色素は鉄分やアルミニウムイオンとよく結合します。ナスの漬物を作るときに、古釘やミョウバンを入れるのは、このためです。

ナスは生食できません。熱を通したり、漬物や塩もみして使います。また油とよくなじみますから、天ぷら、炒め物などにしますと、色も変化せず、きれいな紫色を楽しめます。

一口大の小型のものから巨大なものまで、また長いものや丸いものなど、形もいろいろです。料理の目的に応じてナスの味を楽しめるというわけです。

ところでナスは、なんとジャガイモとかトマト、ピーマンと同じ仲間です。夏から秋にかけて豊富で安価なこれらの野菜、工夫して沢山食べたいものです。

ナスはインドが原産地、我が国ではもう奈良時代には作っていた記録があるそうで、仏教と一緒に伝来したのかもしれない。

このくらしの情報コーナーでは、読者の皆さんの投稿をお待ちしています。原稿の送り先は、〒九三〇 富山市新堀曲輪一番七号 富山県知事公室広報課 富山県知事公室広報課 係まで

年の功を生かして特産品を

福野町では、高齢者共同作業センターが完成し、お年寄りの長年の経験や技能を生かして生きがいづくりを進める活動が、いよいよ本格的にスタートします。

共同作業センターは、味噌作りの施設と軽作業室を備えていて、日本一の生産を誇る大豆の加工や、福野町の特色を生かした民芸品の製作など、お年寄りの知恵と力を集めて町



民芸講座で熱心な研修

まちからむらから

の特産品を生みだそうというわけですが、このあたりには、老人福祉センターやゲートボール場などもあって、お年寄りの生きがいの場となっています。

またシルバー人材センターの事務局も共同作業センターに併設されており、人材の確保や提供、施設の効率的な運用などをめざしています。

例えば、企業や一般家庭で不足する労働力や特定の技能の需要に応じているほか、共同作業センターにも人材を提供しています。現在、約五十名の高齢技能者が登録されています。

さて、この登録者の技能向上と、高齢者ボランティアの養成を図って、ボランティア養成民芸講座も開かれています。

七月から始まったこの講座、第一回目は表装技術の講習でした。約六十名のお年寄りが集まって、それぞれが持参した水墨画を使って、熱心に表装を学んでいました。

これからも、長い間つちかかった技能により磨きをかけ、新しい技術を修得して、老人パワーをさらにアップしよう、とお年寄りたちは意気盛んです。

暮らしのひとくちメモ

クーリング・オフ制度

クーリング・オフとは「頭を冷やす」という意味です。訪問販売などで商品を購入する場合セールスマンの口車に乗せられて、つい契約してしまうということになりがちです。

このため消費者に本当に必要な契約だったかどうか冷静に考える期間を与え、この期間内に書面で解約の申出をすれば、一方的かつ無条件に契約を解除できると定めたのがクーリング・オフ制度です。

クーリング・オフ期間

クーリング・オフできる期間は、クーリング・オフ制度についての説明書面を受け取った日から数えて、

ない場合

訪問販売、生命保険は4日間、宅地建物取引は5日間、マルチ販売、海外先物取引(香港の二市場で取引される大豆、砂糖、金についてのみ)は14日間です。この期間内に書面を発送すれば良く、消印有効です。

解除の書面は通知の有無のトラブルを避けるために、内容証明郵便を利用するのが一番良いのですが、書留郵便を利用する場合もあります。

訪問販売の場合は、①商品を受け取り、代金を全額支払った場合、②ことを書面で知らされていたのに使ってしまった場合、③乗用車については適用されません。

また、生命保険については期間内であっても、医師の診断を受けると適用されなくなりますので注意が必要です。

7月16日～8月15日

7月21日

立山室堂に診療所

立山黒部アルペンルートの夏山シーズン中の登山者や観光客の医療を確保しようと、室堂ターミナル内に診療所を開設しました。

8月20日までの1カ月間、県立中央病院から医師1名、看護婦2名を派遣し、午前9時から午後4時半まで診療を行っています。急患に備えて、24時間の待機体制もとっています。

なお、立山地区には他に剣沢と雷鳥沢にも金沢大学の診療所が開設されています。また重症者等の発生に備えて、美女平には立山消防署の救急隊が、常時駐在しています。

B-767型機就航

この日から、富山空港にボーイング767型機が、第2便に就航しました。(詳しくは8月号をご覧ください。)

7月24日

青年の翼(農業部門)出発

「明日を拓く青年の翼」(農業部門)の結団壮行式が、県庁大ホールで行われました。

派遣団一行は20名、翌25日朝、富山を出発し、一路バンクーバーへ向かいました。一行は、アメリカのワイローズで6日間にわたりファーム・ステイを行い、アメリカ農業を肌で体験して、8月10日、全員無事帰県しました。

7月24日～26日

ジェット機の騒音を測定

富山空港周辺の地域における航空機騒音の実態を把握し、騒音の環境基準の地域指定の基礎資料にするため、県と地元市町が協力して実態調査を行いました。

騒音の測定調査地点は16カ所。その他に飛行コースの調査も行いました。

7月25日～28日

若者の力をボランティアに

黒部青少年の家など3カ所を会場に、高校生等ボランティア養成講座が開かれました。これは、青少年社会参加促進事業の一環として、またボランティア活動のグループ結成や実践のリーダー的役割を担う若者を育成しようとするものです。3泊4日の研修の最後は、実際に社会福祉施設へ行っての活動。富山市のめひの野園などで、約二時間ボランティア活動を実践しました。

8月下旬には、砺波地区の講座が開かれます。

7月31日

砺波市で知事と語るつどい

砺波市文化会館多目的ホールで、砺波市民と知事との対話集会「知事と語るつどい」が行われました。会場には約300名の市民が参加し、私立大学誘致問題、高齢者生きがい事業の運営などについて熱心に質疑応答がされました。

なお同日、砺波市内のまちまわりも行い、チューリップ球根選別場や砺波名物の夕市、老人福祉センターなどを視察しました。

8月2日

マーロー到着

友好省の中国遼寧省から贈られたマーローのつがい、室々と貝々が富山に到着。富山市のファミリーパークで一般に公開されました。(詳しくは、本文12～13ページをご覧ください。)

8月3日

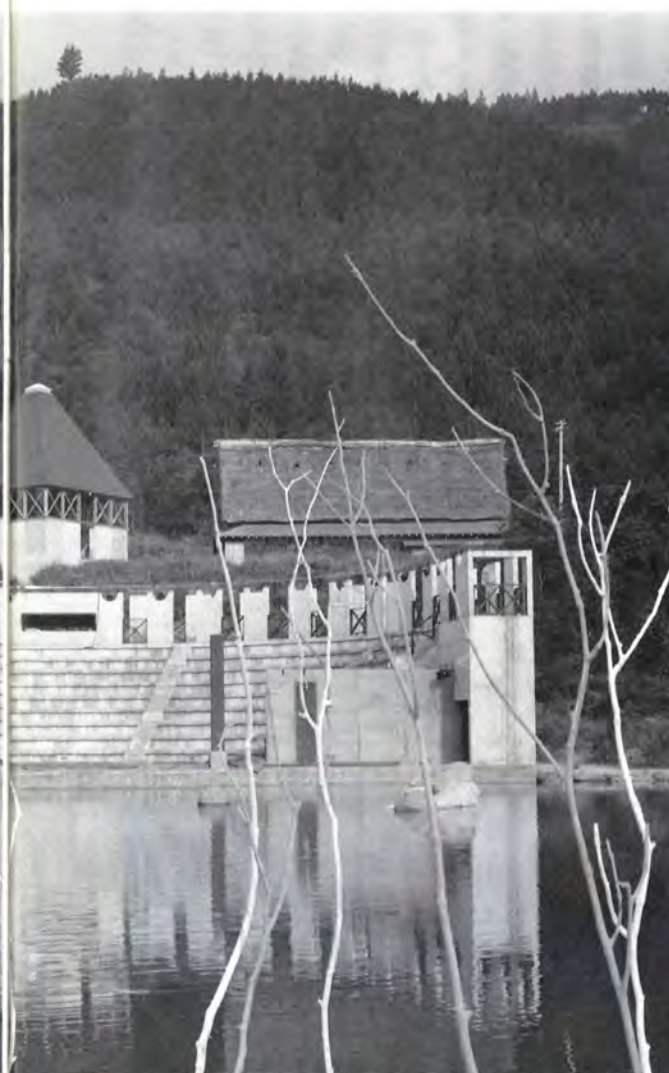
利賀フェスティバル開幕

利賀村の野外劇場と利賀山房を中心に利賀フェスティバル84が開幕しました。

12日までの期間中「世界は日本だけではない、日本は東京だけではな



▲利賀フェスティバル野外劇場



も残すためにも、私たちみんなの努力が必要です。

「ゴミは家まで持ち帰りましょう」を合言葉に、県内の自然公園地区内23地点で、ゴミ持ち帰り用ビニール袋とPR用のチラシを配付しました。

8月11日

入場20万人に達する

開園2年目を迎えた太閤山ランド。7月からは、プールひろばもオープンして、夏休み中の子供たちの人気を集めています。このほどプールひろばの入場者数が、20万人を突破

しました。

20万人目は、新湊に里帰りしていた大阪の会社員の一家族。お祝いに太閤山ランドから、スポーツバッグやTシャツなどの記念品を贈りました。

8月11日

第37回県体

「日本一の健康とスポーツの県づくり」を目指している富山県民のスポーツの祭典、第37回県民体育大会夏季大会が開かれました。

高岡市をメイン会場に、8市8町



◀青年の翼出発式



▶戦没者追悼式



1村で、水上で、陸上で、35種類の競技に小学生から高齢者まで幅広い多数の県民が参加して、13日までの3日間、盛大に繰り広げられました。

8月15日

恒久平和への誓いを胸に

第22回富山県戦没者追悼式が、午前11時50分から県民会館大ホールでしめやかに営まれました。

戦没者の遺族や関係者約1,000人が列席し、3万人を超える富山県関係の戦争の犠牲者のめい福を祈るとともに、恒久平和と郷土の発展を誓いました。

斬新な素材の組み合わせ

富山昆布巻かまぼこ

富山のかまぼこは、オホーツク海のスケソウダラを主体に、富山湾で獲れるトビウオ、シイラ、ミギス、タチウオ、それに東シナ海のグチなどを原料にしています。光沢があって、堅すぎず、やわらかすぎない歯ごたえ、魚の持ち味を生かした塩かげん、そして独特の単純な渦巻き形のデザイン。

ところで昆布と魚の組み合わせは、昔から北海道と関係の深かった富山の生活の知恵です。昆布じめのサシミもありますね。

富山のかまぼこは、オホーツク海のスケソウダラを主体に、富山湾で獲れるトビウオ、シイラ、ミギス、タチウオ、それに東シナ海のグチなどを原料にしています。光沢があって、堅すぎず、やわらかすぎない歯ごたえ、魚の持ち味を生かした塩かげん、そして独特の単純な渦巻き形のデザイン。

かまぼこは魚好きの日本人が作りだした味の傑作ですが、その最高傑作は、富山の昆布巻かまぼこではないでしょうか。かまぼこは、すでに平安時代には作られていて、魚のすり身を竹や板に付けて火であぶったものが、そもその始まりだそうです。竹輪や板付は、かまぼこの原型に近いものです。

昭和三十三年頃から始められた真空パック包装によって長期保存が可能になり、県外にも大量に出荷されています。東京や大阪のデパートなどに、そして近県にと「ますずし」と並んで他県のかまぼこに勝るとも劣らない人気を保っています。

富山のかまぼこは、オホーツク海のスケソウダラを主体に、富山湾で獲れるトビウオ、シイラ、ミギス、タチウオ、それに東シナ海のグチなどを原料にしています。光沢があって、堅すぎず、やわらかすぎない歯ごたえ、魚の持ち味を生かした塩かげん、そして独特の単純な渦巻き形のデザイン。

昆布巻かまぼこは明治の頃に作り始められたそうですが、当時から昆布は函館周辺で獲れるものを使っています。幅が一定して広く、身が薄くて油気がないという一級品です。県内で生産されているのは、婚礼用の豪華な鯛や鶴亀、富士山などの細工物からオードブル用のスライス物まで、約二百種類にもなりますが、やはり根強い人気は、昆布巻かまぼこ。生産量の三分の一はこれ、という業者もあります。



シリーズ④

特産王国 とやま

お知らせ

●県青少年美術展の開催

県内在住の中学生以上25歳までの青少年の美術作品を展示する第9回富山県青少年美術展を開きます。日頃の腕をふるってご応募ください。

- (1) 展覧部門：絵画、彫刻、工芸、デザイン、書、写真
 - (2) 場所：富山県民会館美術館、301号室及び204号室
 - (3) 開催期間：昭和59年9月22日(土)～26日(休)
 - (4) 応募方法：昭和59年9月19日(休)午後1時から4時まで、県民会館美術館で受け付けます。
- なお詳しいことは、県教育委員会文化課 (☎0764④4111)、または県芸術文化協会 (☎0764④8635) までお問い合わせください。

●終戦当時の引き揚げ者の方々へ

税関では、お預かりしている次の通貨・証券などをお返ししています。

- (1) 終戦後、外地から引き揚げてこられた方が、上陸港の税関、海運局に預けられた通貨・証券など。
- (2) 外地の集結地において総領事館などに預けられた証券などのうち日本に送り返されたもの。

返還の申し出は、ご本人ばかりでなく、ご家族の方でも結構です。お心当たりの方は、次の税関へお問い合わせください。

- (連絡・照会先)
- ・伏木税関支署
〒933-01 高岡市伏木錦町11-15伏木港湾合同庁舎内 (☎0766④0163)
 - ・伏木税関支署富山出張所
〒931 富山市東岩瀬海岸通17-2 富山港湾合同庁舎内 (☎0764⑤5515)

●とやま健康フェスティバルの開催

日本一の健康県づくりを目指して、一般県民を対象にした講演会や展示、健康相談などを行います。皆様の参加をお待ちしています。

- (1) 健康づくり大会：来る10月12日(金)、県民会館大ホールで行います。特別講演は、NHKの山川静夫氏による「ウルトラアイよもやまばなし」です。
- (2) 健康をつくる生活展：10月12日(金)～14日(日)、県民会館展示場で健康相談コーナー、ミニ健診、体力テストコーナー、食生活と健康の展示コーナーなどがあります。

*おわびと訂正

先月号(8月号)の17ページ「自転車の不正駐車追放」の記事中2段目、左から2行目の「自転車の防犯登録は、近くの警察で……」は「購入した自転車店で」の誤りでした。訂正しておわびします。

近代美術館から

「ジャコモ・マンズー展」 9月8日(土)～10月21日(日)

現代彫刻の世界的巨匠、ジャコモ・マンズーの彫刻と油彩、デッサン、あわせて120点を展覧します。

魂の最も深い情感をゆさぶる彼の人間性を追求した数々の作品を堪能ください。

- ・入館料 一般 800円 (650円)
- 高校大学生 600円 (450円)
- 小中学生 350円 (250円)
- ()内は20人以上の団体料金

9月街頭献血日程

月日曜	場 所	時 間	月日曜	場 所	時 間
9/1(出)	富山駅前	10:00～16:00	9/18(日)	富山市中央通り前	10:00～16:00
1(出)	高岡駅前	10:00～15:30	18(火)	滑川市役所前	10:00～15:30
4(出)	利賀村役場前	10:00～15:30	19(水)	宇奈月町商工会館前	10:00～15:30
5(休)	田川町役場前	10:00～15:30	22(土)	富山駅前	10:00～16:00
7(出)	井波町役場前	10:00～15:30	22(土)	高岡駅前	10:00～15:30
9(日)	富山西武前	10:00～16:00	27(木)	福岡町役場前	10:00～15:30
14(金)	大山町役場前	10:00～15:30	29(土)	富山駅前	10:00～16:00
15(土)	富山駅前	10:00～16:00	29(土)	高岡駅前	10:00～15:30
15(土)	高岡駅前	10:00～15:30	30(日)	高岡駅前	10:00～15:30

県政についてのご相談は県民相談室へ

県民相談室	富山市新総曲輪1-7(県庁内) ☎富山31-4111(代) 31-3131(県民電話)
高岡地方県民相談室	高岡市赤祖父211(総合庁舎内) ☎高岡21-9411
魚津地方県民相談室	魚津市宿10-7(総合庁舎内) ☎魚津24-5311
砺波地方県民相談室	砺波市幸町1-7(総合庁舎内) ☎砺波33-5151

***** 県広報はあなたと県を結ぶパイプ役 *****

富山県では、この「県広報とやま」のほかテレビ、新聞などの媒体を活用して、県の施策の紹介や暮らしの情報を提供しています。

〈テレビ広報〉
KNB「こんにちは富山県です」
毎週日曜日 午前8時～8時30分
富山テレビ「110万人のひろば
——クイズ/フォーカス——」
毎週日曜日 午前9時～9時30分

〈新聞広報〉
○北日本、富山、読売、北陸中日
毎月第2土曜日「県からのお知らせ」
毎月最終土曜日「みんなの県政」
○朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日「県からのお知らせ」

9月15日～21日は老人福祉週間です。

熱中できるって
ステキなことですね